

あなたは
家を
買いますか

●2

3世代をろって1階で晩ご飯を食べた後は、階段の上の「我が家」へ。

東京都世田谷区のインテリアプランナー、氏家香澄さん(38)宅は、1階が両親、2階が自分と息子(1)の2世帯住宅だ。

玄関は共有で、それぞれに台所、風呂、トイレがあり、夕食以外の食事、洗濯や掃除は別に済ませる。

吹き抜けに面して2階の層間がある。ガラスで仕切っているから音は通らない。明かりをつけた時など、気配だけが伝わる。

5年前に建て替えるまでは築30年の4LDK。香澄さんは育児や炊事を母に頼

る一方、「距離が近すぎていつもゴタゴタしていた。日曜は外食するなど、息抜きの日を決めていた。



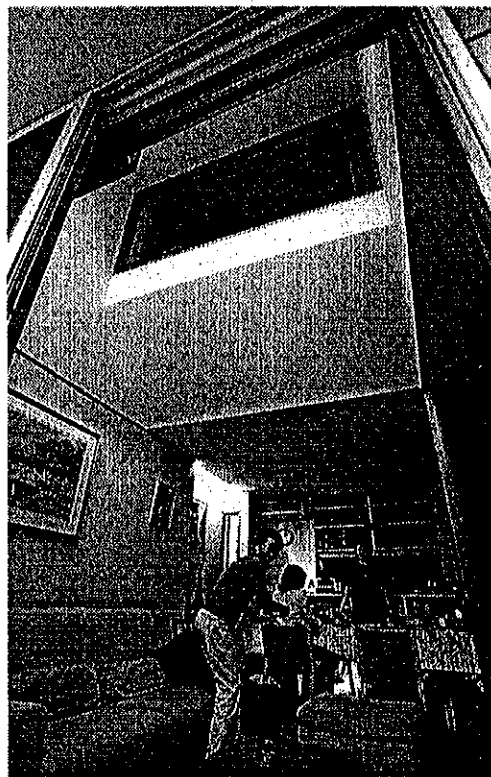
「テレビの音や小言が耳に入れば、両親にはストレスです。同居だから安心して働けますが、生活は分けたかった」と香澄さん。

母親の苑子さん(66)も「お嫁さんなら我慢する言葉も、つい言ってしまう。分けたら楽になりました」。

氏家さん宅を手がけた建築家の来馬輝樹さん(48)は、「2世帯住宅を多く設計してきた。ドライな関係の親子が、老後や育児、経

●2世帯住宅は2戸つなく時代●

離して築くいい関係



吹き抜けを通じて互いの生活の気配がわかる氏家香澄さん宅(東京都世田谷区)

跡取り重圧消え、幸せ優先

「運く帰老してか、親の食事を作る？」
「いや、2戸をつなぐ感じ」
「2階の世帯の習慣や希望を詳しく尋ね、間取りを探る。朝はパンかご飯か、友人が来たらどの部屋に通すのか」。

「2階に居間だと、お母さんの足が遠のくんじやないか」。

「2階に居間だと、お母さんの足が遠のくんじやないか」。

得のための親からの贈与が3500万円まで非課税という税制も、追い風だ。

旭化成ホームズが昨年8月に出した「ヘーベルハウス」は、同じ外観の2棟を並べ、間に交流の場になる中庭を設けた。

同社が初めて2世帯住宅を商品化したのは29年前。すべて共有の「サザエさん型」同居が主流の当時、あまり売れなかった。地価が上がり、子世帯が単独で家を持つのが難しくなって普及しました」と同社2世帯住宅研究所の熊野野所長。

バブル後、地価が下がって子世帯も家を手が届く。団塊世代の親たちは、「孫の世話より自分の人生」だ。なのに2世帯住宅を建てるのは、「息子がいても娘との同居を選ぶ親が増え、子にとって跡継ぎの重圧がなくなった。互いに楽な相手と住むようになったからなのでしょう」。

「2階に居間だと、お母さんの足が遠のくんじやないか」。

「2階に居間だと、お母さんの足が遠のくんじやないか」。